

外部評価実施一覧

事務事業名 (所管課)	事業の意図	事業の概要	令和2年度決算額(千円)	成 果				外部評価委員会	
				成果指標 (単位)	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度目標	今後の方向性	意 見
情報教育推進事業 (公立学校情報機器整備)	児童生徒に1人1台タブレットPCを配備し、各教科や総合的な学習の時間帯で活用することにより、教育におけるICTを基盤とした先端技術等の技能の習得と情報モラルを身につけることを目指す。また、すべての教職員にPCを配備することにより、事務の効率化と情報管理の安全性を高める。	R2年度:小・中学校教職員校務用PC、ネットワーク機器類の整備等 R3年度:小・中学校情報端末及びネットワーク機器類の整備等、小・中学校教職員用統合型校務支援システムの整備等 ICT支援業務委託、PC保守点検業務委託等 R4年度:小・中学校情報端末及びネットワーク機器類の整備等、ICT支援業務委託、PC保守点検業務委託等	409,890	整備率 (%)	—	100	—	現状のまま継続	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、情報機器整備は前倒しで導入され児童生徒1人ひとりにタブレットを導入するという目標を達成されており、これからはその活用の充実を図ることが重要だと思われる。教職員の研修、ICTを活用した教育を推進するための環境整備、児童生徒の適切な情報活用能力を高める方策等の充実を推進して欲しい。 ・臨時休校や分散登校の措置がいつとられるか分からない状況が続く中、安定した教育の機会を提供するためには継続して事業を進める必要がある。 ・ハード面、ソフト面共に綿密に計画され着実に推進されている。
(教育総務課)									
文化財保護事業	市内に残された多くの優れた文化財の把握と価値付けのために、文化財に関する調査を進め、適切な文化財指定・登録を推進していく。また、後世に伝えるため文化財の保存整備を図り、文化財を通して郷土の歴史を学習する場を提供するなど、活用と公開に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・指定文化財を適切に保存管理するため、清掃・除草・見廻り等を実施する。また、保存環境が適切でない文化財の整備に取り組むため、公有化を進める。 ・未指定の文化財について、その価値付けを行い指定文化財として保存できるよう、文化財保護審議会と連携しながら調査を進める。 ・価値の高い国指定文化財などを、保存に留意しながら積極的に一般公開し、学習や観光の機会を提供する。 	9,848	県内装飾古墳一斉公開見学者数 (人)	440	—	800	現状のまま継続	<ul style="list-style-type: none"> ・玉名市に存在する文化財について市民等に広く周知するための具体的な対策や、子供たちを中心にふるさとに対する愛着心を高め、地域の歴史や伝統文化を引き継ぐ人材の育成、出土遺物について地方創生、観光振興の保存活用などを踏まえた一体的活用するための機能の整備等の推進、充実を期待する。 ・長期、継続的な取り組みが必要と思われる。 ・「玉名市歴史ガイドブックふるさと文化財探訪」の電子書籍化を進めておられることに期待感を持っている。内容の充実を図ってもらいたい。
(文化課)				指定・登録文化財件数 (件)	156	161	162		
地域学校協働活動事業	地域と学校の連携・協働体制を構築し目的を共有することで、地域学校協働活動の取り組みが増加し、学校が抱える課題が解消されるとともに、社会に開かれた教育課程が実現する。また、子どもたちが地域に目を向け地域に愛着を感じるようになり、地域も子供たちにかかわることで地域住民の学びにつながる。	<ul style="list-style-type: none"> ・市内21小中学校に地域学校協働活動推進員を配置し、幅広い地域住民等の参画を得て、学校への各種学習支援を行うことで、教職員負担軽減を図り、児童・生徒と向き合う時間を増やす。また、児童・生徒が地域の実情に応じた社会奉仕活動等を実施することで郷土愛を育む。 ・放課後の空き教室を活用して、子どもたちの安全・安心な活動拠点を確保し、地域の方々の参画を得て、様々な体験活動や学習活動、交流活動を実施し子どもたちの豊かな人間性を育む。 	3,430	教員が児童・生徒と向き合った時間数 (時間)	499	2,805	3,000	現状のまま継続	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民へこの事業を尚一層周知し、多くの住民の力を借り、皆が「当事者」として学校・地域を創り上げていく事を強く意識しながら事業を展開していく必要があると思われる。 ・子ども達が学校内での授業のみではなく広く多種の知識を広めるためには必要と思われる。 ・「地域で子どもを育てる」という意識の定着に繋がる。 ・地域学校協働活動推進員が配置されたことにより、学校と地域住民や関係団体との連携が非常にスムーズにできるようになったことを実感している。今後も積極的に推進して欲しい。
(コミュニティ推進課)				放課後子ども教室参加児童数 (人)	19	—	20		
競技スポーツ大会補助事業	全国大会等への出場選手並びにスムーズかつ盛んな競技大会の運営のために補助金等を交付し、競技スポーツの活性化及び向上を図る。	本市のスポーツ振興と競技力の向上を図るため、全国大会出場者に対して1万円、国際大会出場者に対して2万円の激励金の交付を行う。また、各競技大会実行委員会に対して大会運営補助を行う。	310	競技スポーツ大会参加者数 (人)	52	—	1,100	現状のまま継続	<ul style="list-style-type: none"> ・評価対象事業である金栗杯ハーフマラソン大会、金栗駅伝大会、くまもと玉名レスリング大会及び競技スポーツ大会補助事業が一過性に終わることなく継続し、拡充していくことを期待する。 ・コロナ禍でのスポーツ振興に工夫が必要と思われる。 ・昨年、いちごマラソンといだてんマラソンの同時開催が計画されましたが、いちごマラソンの充実を図る方向で進めてもらえば良いのではないかと思う。
(スポーツ振興課)									